

2019 高津 LCⅢ評価ルーブリック

| | | 観点 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|--------|---|------------|---|--|---|---|
| 創造性 | ① | 課題のオリジナリティ | 課題発見の着眼点に独創性が見られ、問題の発見から課題設定までのプロセスが科学的・論理的に、丁寧に分かりやすく記述されている。 | 課題発見の着眼点に独創性が見られ、問題の発見から課題設定までのプロセスが記述されている。 | 課題発見の着眼点がないが、問題の発見から課題設定までのプロセスが分かりやすく記述されている。 | 課題発見の着眼点に独創性が見られない。また、問題の発見から課題設定までのプロセスの記述が不十分である。 |
| 探究プロセス | ② | 仮説の設定 | どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられており、課題設定にあたり、研究の動機と、自らが取り組んだ課題との因果関係や関連性が根拠をもとに明確に記述されている。 | どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられており、研究の動機と、自らが取り組んだ課題との因果関係や関連性が根拠をもとに明確に記述されている。 | どのような事象に興味を持ったかが述べられていないが、研究の動機と、自らが取り組んだ課題との因果関係や関連性が根拠をもとに明確に記述されている。 | どのような事象に興味を持ったかが述べられていない。また、研究の動機と、自らが取り組んだ課題との因果関係や関連性が記述されていない。 |
| 系統的理解 | ③ | 仮説の検証 | 課題解決のプロセスの中で観察・実験・調査の目的や意義がわかりやすく十分に述べられており、その結果・データの意味がよく吟味され示されている。 | 課題解決のプロセスの中で観察・実験・調査の目的や意義が十分に述べられており、その結果・データの意味が十分に示されている。 | 課題解決のプロセスの中で観察・実験・調査の目的や意義が述べられてはいるが、その結果・データの意味が十分には示されていない。 | 課題解決のプロセスの中で観察・実験・調査の目的や意義が述べられていない、また、その結果・データの意味が示されていない。 |
| 考察 | ④ | 結論の内容 | 観察・実験・調査の結果が十分に吟味されており、結論に至るまでの論理が矛盾なく一貫性があるものになっており、わかりやすく明確に記述されている。 | 観察・実験・調査の結果が十分に吟味されており、結論に至るまでの論理が矛盾なく一貫性があるものになっている。 | 観察・実験・調査の結果が吟味されているが、結論に至るまでの論理に飛躍があったり、一貫性に欠けている部分がある。 | 観察・実験・調査の結果が吟味されておらず、結論に至るまでの論理に飛躍があったり、一貫性に欠けている。 |
| 文章表記 | ⑤ | 論文としての完成度 | 事例や客観的なデータ等を用い、具体的にわかりやすい文章表現ができた。また、自分の考えを十分にまとめて伝えられた。 | 事例や客観的なデータ等を用い、わかりやすい文章表現ができた。また、自分の考えをまとめて伝えられた。 | 事例や客観的なデータ等を用いた、わかりやすい文章表現ができたとは言えないが、自分の考えを伝えられた。 | 事例や客観的なデータ等を用いた、わかりやすい文章表現ができたとは言えない。また、自分の考えを十分にまとめられていない。 |